



本事業は、平成 26 年度ユネスコ活動費補助金
(グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業)
として採択され、実施されます。



日本/ユネスコパートナーシップ事業

ESD in 三重 2014

～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース世界会議～

開催要項



開催期間：平成 26 年 11 月 7 日（金）～11 月 12 日（水）

主催：国立大学法人 三重大学/国際環境教育研究センター

後援：日本ユネスコ国内委員会/環境省中部地方環境事務所/三重県/三重県教育委員会/三重県私学協会/三重県ユネスコ連絡協議会/津市/津市教育委員会/松阪市/松阪市教育委員会/鈴鹿市/鈴鹿市教育委員会/名張市/名張市教育委員会/亀山市/亀山市総合環境研究センター/鳥羽市/熊野市/熊野市教育委員会/Atmosphere (Environmental) Action Network in East Asia (AANEAE/EANEAE)/伊勢湾再生推進会議/公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟/M-EMS 環境倶楽部/一般社団法人 M-EMS 認証機構/一般財団法人 三重県環境保全事業団/特定非営利活動法人 三重スローライフ協会/三重県地球温暖化防止活動推進センター/公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター/三重県総合博物館/斎宮歴史博物館/海の博物館/中部電力株式会社/三重県環境整備事業協同組合/株式会社光機械製作所/ NHK 津放送局/株式会社 ZTV/松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社/三重テレビ放送株式会社/朝日新聞社/伊勢新聞社/産経新聞社/中日新聞社/毎日新聞社/読売新聞/



目 次

「ESD in 三重 2014」ポスター	1
概要	2～3
開催場所	4
1 日目行程表	5
2 日目行程表	6～7
A コース	6
B コース	7
3 日目行程表	8
4 日目行程表	9
5 日目行程表	10～11
三重大学の概要	12～16
基本理念	12
あゆみ	13
三重大学キャンパスマップ	14
会場となる三重大学施設の概要	15～16
会場図 - I 久居グリーンホテル周辺図	17
会場図 - II 勢水丸 航路図	18
会場図 - III 名古屋国際会議場	19
資料 - I 勢水丸	20～21
資料 - II 海の博物館・海女小屋（国崎）	22～25
資料 - III 松名瀬干潟	26～28
資料 - IV 斎宮歴史博物館	29～30
資料 - V 三重県総合博物館	31～32
ポスター - I AQUA SOCIAL FES!!2014 in 松名瀬	33
ポスター - II 「映画“WOOD JOB！”と三重大学演習林」企画展示	34～35
ポスター - III 三重大学ユネスコスクール／シンポジウム 2014	36
持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議	37
メモ	38
その他（持ち物・緊急連絡先等）	39

「ESD in 三重 2014」ポスター



本事業は、平成26年度ユネスコ活動費補助金
(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)
として採択され、実施されます。



日本/ユネスコパートナーシップ事業

ESD in 三重 2014

～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユース世界会議～

「世界一の環境先進大学」三重大学

期間

2014.11.7(金)～12(水)

11月7日(金)

アジア・太平洋ユース伊勢湾上国際環境学習

場所: 勢水丸/海の博物館/海女小屋(国崎)

11月8日(土)

ESDエキスカーショ

場所: 松名瀬干潟/斎宮歴史博物館

11月9日(日)

ESDエキスカーショ・分科会

場所: 三重県総合博物館(MieMu)/三重大学 環境・情報科学館

11月10日(月)

10:00～11:00

一般参加無料

「映画"WOOD JOB!"と三重大学演習林」企画展オープニング

場所: 三重大学 レーモンドホール

13:30～17:30

定員200名 | 一般参加無料

アジア・太平洋環境コンソーシアムESD国際シンポジウム

場所: 三重大学 環境・情報科学館 1階ホール

- 環境コンテスト・ECOアイデア表彰式
- 基調講演1「瀬戸内海・犬島におけるESD教育プログラムの開発
～ワークショップ事例発表: いぬじま探検隊～」
講演者/ 森下真行 岡山県立大学 学科長・研究科長・教授
事例発表者/ 岡山県立大学デザイン学部学生
- 基調講演2「食とエネルギーの環境大国デンマークの経験に学ぶ」
講演者/ ビーター D. ビーターセン リーダーシップアカデミー-TACL代表
- 記念講演「日本における国連ESDの10年の成果・課題と今後の展望」
講演者/ 阿部 治 立教大学教授・ESD研究所所長・日本環境教育学会会長
- 分科会成果発表
- アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユース宣言

11月10日(月)～12日(水)

三重大学ブース運営

場所: 名古屋国際会議場

11月12日(水) 17:00～18:30

三重大学セミナー「ESD in 三重2014」

場所: 名古屋国際会議場

問い合わせ・申し込み先



三重大学

国際環境教育研究センター支援室(担当 亀山)

☎(059)231-9976・9823 FAX(059)231-9859

✉esd2014@gecer.mie-u.ac.jp

http://www.gecer.mie-u.ac.jp/



主催: 国立大学法人 三重大学/国際環境教育研究センター
後援: 日本ユネスコ国内委員会/環境省中部地方環境事務所/三重県/三重県教育委員会/三重県私学協会/三重県ユネスコ連絡協議会/津市/津市教育委員会/松阪市/松阪市教育委員会/鈴鹿市/鈴鹿市教育委員会/名張市/名張市教育委員会/亀山市/亀山市総合環境研究センター/鳥羽市/熊野市/熊野市教育委員会/公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟/一般社団法人 M-EMS認証機構/一般財団法人 三重県環境保全事業団/公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター/Atmosphere(Environmental) Action Network in East Asia (AANE/AEANE)/特定非営利活動法人 三重スローライフ協会/三重県地球温暖化防止活動推進センター/伊勢湾再生推進会議/M-EMS環境倶楽部/三重県総合博物館/斎宮歴史博物館/海の博物館/中部電力株式会社/三重県環境整備事業協同組合/株式会社光機械製作所/NHK放送局/株式会社ZTV/松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社/三重テレビ放送株式会社/朝日新聞社/伊勢新聞社/産経新聞社/中日新聞社/毎日新聞社/読売新聞

概要 (1/2)

ESDin 三重 2014

～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース世界会議～

目 的 日本を含むアジア・太平洋地域の小・中・高・大学生が、文化・年齢の違いを越えた交流の中で、環境保全、国際理解、生物多様性保全、文化・伝統の保存・継承等の ESD プログラムを体験し、これからの持続可能な社会づくりに向けて必要なことに気づき、考え、学ぶことを通じて、次世代を担う自ら（ユース）の役割を見出し、それらを『アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言』としてまとめることを目的とします。

開催期間 平成 26 年 11 月 7 日（金）～11 月 12 日（水）

開催場所 三重大学環境・情報科学館、三重大学レーモンドホール、三重大学附属練習船勢水丸、海の博物館、海女小屋（国崎）、松名瀬干潟、斎宮歴史博物館、三重県総合博物館、名古屋国際会議場など

対 象 小学生、中学生、高校生、大学生

参 加 者 三重会場（11/6～11/10）100～200 名
愛知会場（11/10～11/12）ブース出展 2～3 名
※11/12 午後セミナー 40～90 名

参 加 費 無料

内容・日程 <11 月 6 日（木）～9 日（日）>

日時		事項	
11/6(木) 1 日目	18:00～ 19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学環境・情報科学館 1 階）	
11/7(金) 2 日目		アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習	
		A コース	B コース
	午前	勢水丸	海の博物館・海女小屋（国崎）
	午後	海の博物館・海女小屋（国崎）	勢水丸
11/8(土) 3 日目		ESD エクスカーション	
	午前	松名瀬干潟	
	午後	斎宮歴史博物館	
11/9(日) 4 日目	午前	ESD エクスカーション（三重県総合博物館）	
	午後	分科会（三重大学環境・情報科学館）	

概要 (2/2)

内容・日程 < 11月10日(月)～12日(水) >

日時		事項
11/10(月) 5日目	午前	「映画『WOOD JOB!』と三重大学演習林」企画展示 オープニング(三重大学レーモンドホール)
	午後	アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム (三重大学環境・情報科学館 1 階) ・「ESD in 三重 2014」成果報告(朴恵淑 三重大学理事・副学長) ・環境コンテスト、ECO アイデア表彰式 ・基調講演1(森下眞行 岡山県立大学 学科長・研究科長・教授) ・基調講演2(ピーター D.ピーダーセン リーダーシップアカデミー-TACL 代表) ・記念講演(阿部治 立教大学教授・ESD 研究所所長・日本環境教育学会会長) ・分科会成果発表 ・アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD) ユース宣言
	午後	三重大学ブース運営(名古屋国際会議場 西側駐車場) ※関係者のみ
11/11(火) 6日目	終日	三重大学ブース運営(名古屋国際会議場 西側駐車場) ※関係者のみ
11/12(水) 7日目	終日	三重大学ブース運営(名古屋国際会議場 西側駐車場) ※関係者のみ
	17:00～ 18:30	三重大学セミナー「ESD in 三重 2014」 (名古屋国際会議場 1 号館 3 階)

■備考

- 三重大学ブース運営は、ESD ユネスコ世界会議併催イベントの「あいち・なごや ESD 交流フェスタ」内で行います。「あいち・なごや ESD 交流フェスタ」の開催場所、スケジュールは以下の通りです。三重大学ブースの位置については P.19 をご参照ください。

場所：名古屋国際会議場 西側駐車場(三重大学ブースは、ブース番号「D1」)

スケジュール：11月10日(月) 13:00～19:00

11月11日(火) 10:00～19:00

11月12日(水) 10:00～19:00

- 三重大学セミナーは、ESD ユネスコ世界会議併催イベントの「ESD 交流セミナー」内で行います。本学セミナーの開催場所、日時は以下の通りです。(要事前登録)

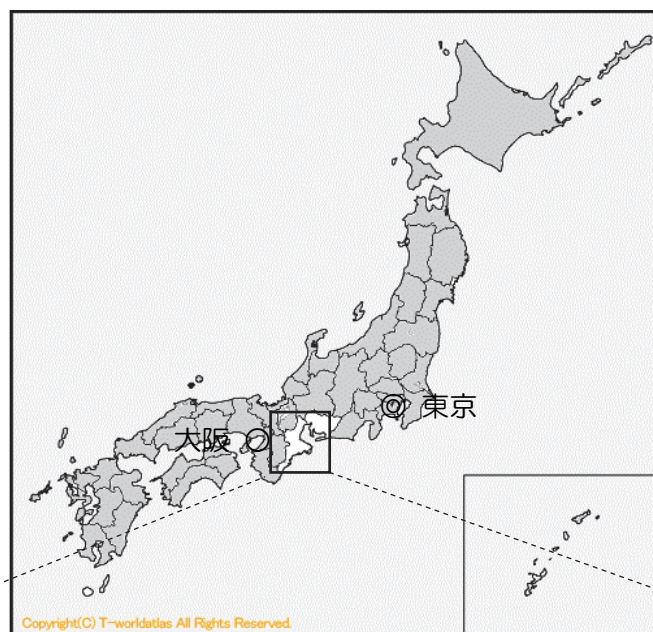
場所：名古屋国際会議場 1 号館 3 階会議室 131/132

日時：11月12日(水) 17:00～18:30

- 名古屋国際会議場内への入場には、「ユネスコ世界会議参加者募集」(文部科学省) ページからの事前登録が必要です。以下の web ページをご確認ください。

https://convention-net.jp/cg/esd_reg/index.html

開催場所



行程表 【1 日目】 11 月 6 日 (木)

★集合／解散 18:00 集合／19:00 解散（予定）

★場所 三重大学 環境・情報科学館 1 階ホール

★参加者 事前説明を受けていない参加者のみ

★スケジュール

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

18:00～19:00	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 オリエンテーション（三重大学 環境・情報科学館 1 階）
17:30～18:00	受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
18:00～18:10	開会挨拶
18:10～19:00	オリエンテーション

★MEMO★

[illegible]

#

行程表 【2日目】 11月7日（金）～Bコース～

★集合／解散 8:00 三重大学正門 集合／19:50（予定） 生協第一食堂 解散
 ※宿泊者は 7:20 久居グリーンホテル 1階ロビー 集合
 20:40（予定） 久居グリーンホテル 1階ロビー 解散

★スケジュール

※昼食・夕食の準備は不要です

7:30～ 8:00		受付（三重大学正門）
8:00～ 8:10	バス	点呼・バス乗車
9:50		海の博物館到着
9:50～10:00		バス下車・休憩
10:00～11:30		アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習（海の博物館） （※P.22～25参照）
11:30～11:40	バス	点呼・バス乗車
12:00		海女小屋到着
12:00～13:00		アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習 （海女小屋・国崎散策） （※P.22～25参照）
13:00～13:10		点呼・バス乗車
13:10～14:20	バス	昼食（車内）
14:20		松阪港到着
14:20～14:30		バス下車
14:30～17:30	船舶	アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習（勢水丸） （※P.18、20～21参照）
17:30～17:40	バス	点呼・バス乗車
18:40		三重大学正門到着
18:50～19:50		夕食（三重大学 生協第一食堂2階） ※宿泊者は夕食後、20:00 に三重大学正門に集合し、バスで久居グリーンホテルへ移動
19:50～20:50		【※関係者のみ】ミーティング（三重大学環境・情報科学館）

■勢水丸乗船時の持ち物、服装

長ズボン、運動靴（※スカート不可。長ズボンはベルトを着用してください。また、必ず運動靴で参加して下さい。クロックス等のサンダルや下駄、かかとの高い靴は不可。）

飲み物、乗り物酔いの薬（必要な方のみ）

行程表 【3日目】 11月8日（土）

★集合／解散 8:00 三重大学正門集合／19:00（予定）生協第一食堂解散
 ※宿泊者は 7:20 久居グリーンホテル 1 階ロビー集合
 19:50（予定）久居グリーンホテル 1 階ロビー解散

★スケジュール

※昼食・夕食の準備は不要です

7:30～ 8:00		受付（三重大学正門）
8:00～ 8:10	バス	点呼・バス乗車
9:00		松名瀬干潟到着
9:00～ 9:30		オリエンテーション
9:30～12:00		ESD エクスカーション（松名瀬干潟） （※P.26～28参照）
12:00～13:00		交流・昼食（松名瀬干潟）
13:00～13:10	バス	点呼・バス乗車
13:50～14:00		斎宮歴史博物館到着・バス下車
14:00～17:00		ESD エクスカーション（斎宮歴史博物館） （※P.29～30参照）
17:00～17:10	バス	点呼・バス乗車
18:10		三重大学正門到着
18:20～19:00		夕食（三重大学 生協第一食堂2階） ※宿泊者は夕食後、19:10 に三重大学正門に集合し、バスで久居グリーンホテルへ移動
19:00～20:00		【※関係者のみ】ミーティング（三重大学環境・情報科学館）

■松名瀬干潟清掃時の持ち物、服装

動きやすく汚れても良い服装、汚れても良い靴、タオル、水分（500ml のペットボトルをひとり一本こちらで用意します。）

※清掃で使用する軍手、ゴミ袋、火ばさみをこちらで用意します。

行程表 【4日目】 11月9日（日）

★集合／解散 8:20 三重大学正門集合／19:00（予定）生協第一食堂解散

※宿泊者は 7:40 久居グリーンホテル 1 階ロビー 集合
19:50（予定）久居グリーンホテル 1 階ロビー 解散

★スケジュール

※昼食・夕食の準備は不要です

8:00～ 8:20		受付（三重大学正門）
8:20～ 8:30	バス	点呼・バス乗車
8:50～ 9:00		三重県総合博物館到着・バス下車
9:00～11:30		ESD エクスカーション（三重県総合博物館） （※P.31～32参照）
11:30～11:40	バス	点呼・バス乗車
12:00		三重大学正門到着
12:00～12:50		昼食（生協第一食堂2階）
13:00～18:00		分科会（三重大学 環境・情報科学館）
12:30～13:00		受付（環境・情報科学館 1 階ホール）
13:00～13:10		開会挨拶 説明 グループ分け
13:10～15:10		分科会（PBL 演習室 2-6） ・防災学習 ・生物多様性 ・地球温暖化（気候変動） ・歴史文化遺産 ・国際理解
15:10～15:20		休憩
15:20～16:20		全体会（環境・情報科学館 1 階ホール） 各分科会発表 まとめ
16:20～18:00		宣言文作成セッション
18:00～19:00		夕食（三重大学 生協第一食堂2階） ※宿泊者は夕食後、19:10 に三重大学正門に集合し、バスで久居グリーンホテルへ移動
19:00～20:00		【※関係者のみ】ミーティング（三重大学環境・情報科学館）

行程表 【5日目】 11月10日(月) (1/2)

★集合／解散 9:20 環境・環境情報科学館 1 階集合／19:30 頃生協第一食堂解散

※宿泊者は 8:10 久居グリーンホテル 1 階ロビー 集合／
20:20 久居グリーンホテル 1 階ロビー 解散

★スケジュール

※昼食・夕食の準備は不要です

9:00～ 9:20	受付（三重大学環境・情報科学館 1 階）
9:30～11:00	「映画“WOOD JOB！”と三重大学演習林」企画展示 オープニングイベント（三重大学レーモンドホール） （※P.34～35参照）
11:00～12:30	昼食（三重大学 生協第一食堂2階）
12:30～13:30	シンポジウム発表準備（三重大学 環境・情報科学館）
13:30～17:30	アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム （環境・情報科学館 1 階ホール） ※詳細スケジュールは次ページ
17:30～19:30	立食パーティー（三重大学 生協第一食堂2階） ※宿泊者は夕食後、19:40 に三重大学正門に集合し、バスで久居グリーンホテルへ移動

★MEMO★

[illegible]

行程表 【5日目】 11月10日（月）（2/2）

☆アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム☆

■場所：三重大学 環境・情報科学館 1階ホール

13:00～13:30	受付（環境・情報科学館 1階ホール）
13:30	開会
13:30～13:40	挨拶（内田淳正三重大学長）
13:40～14:30	「ESD in 三重 2014」成果報告および表彰式 ・「ESD in 三重 2014」成果報告 （朴恵淑三重大学理事・副学長） ・「ESD in 三重 2014」映像上映 ・環境コンテスト表彰式 ・ECO アイデア表彰式 ・受賞者インタビュー
14:30～15:10	基調講演1「瀬戸内海・犬島における ESD 教育プログラムの開発 ～ワークショップ事例発表：いぬじま探検隊～」 講演者：森下眞行（岡山県立大学 学科長・研究科長・教授） 事例発表者：岡山県立大学デザイン学部学生
15:10～15:20	休憩
15:20～15:55	基調講演2「食とエネルギーの環境大国デンマークの経験に学ぶ」 講演者：ピーター D. ピーダーセン （リーダーシップアカデミーTACL 代表）
15:55～16:30	記念講演 「日本における国連 ESD の 10 年の成果・課題と今後の展望」 講演者：阿部治（立教大学教授・ESD 研究所所長・ 日本環境教育学会会長）
16:30～17:20	分科会発表（各分科会発表者） ・防災学習 ・生物多様性 ・地球温暖化（気候変動） ・歴史文化遺産 ・国際理解
17:20～17:30	アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言
17:30	閉会

三重大学の概要 (1/5)

☆基本理念☆

三重大学は、人文学部・教育学部・医学部・工学部・生物資源学部及び地域イノベーション学研究所の5学部6研究科からなる、空・樹・波の「三翠」に恵まれた伊勢湾岸中勢地方に立地し、地域の発展に大きな期待を担う地域圏大学として自然環境と人間活動の調和を目指すと共に地域社会の発展に大きく寄与してきました。四日市公害という、深刻な公害問題を経験した三重県における唯一の国立大学法人の総合大学として、地域に留まらず、地球規模の環境問題に対して主体的に取り組み、次世代に持続可能な地球社会を引き継ぐ使命を担うことの出来る人材育成を目的とした環境先進大学を目指しています。

三重大学は総合大学として、教育・研究の実績と伝統を踏まえ「人類福祉の増進」、「自然の中での人類の共生」、「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し、学術文化の受発信拠点となるべく、切磋琢磨することを基本理念としています。

基本目標は、「三重から世界へ：地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」であります。そのために、幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人財を育成するために、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」の養成を教育全体の目標にしています。これは、受け身の学習によって既定の知識を付与されるのではなく、問題発見力を中心とした「生きる力」を培うことを通して、学生自らが地域社会の課題を正面から考え、そして地域社会に欠くことのできない個性豊かな人間として成長し、世界へと飛躍するのが、この教育目標のねらいであります。また、こうした取り組みを通じて三重の地に所在する総合大学としてのUSR（大学の社会的責任）を果たすこととなります。



三重大大学の概要 (2/5)

☆あゆみ☆

本学は、昭和 24 年 5 月 31 日に、第二次世界大戦後、三重県最初の 4 年制大学として誕生しました。三重師範学校・三重青年師範学校の流れをくむ学芸学部（のち昭和 41 年 4 月に教育学部に改称）と三重農林専門学校（昭和 19 年 4 月三重高等農林学校を改称）を引き続いた農学部による新制大学であります。その後約 60 年の歴史を閲して着実に規模を拡大し共学の実を挙げ、平成 24 年現在、人文学部・教育学部・医学部・工学部・生物資源学部及び地域イノベーション学研究科の 5 学部と 6 研究科を有する総合大学として現在に至っています。

■本学の主な沿革

昭和 24 年 5 月 三重大学（学芸学部、農学部）設置
昭和 41 年 4 月 大学院農学研究科修士課程設置
昭和 44 年 4 月 工学部設置
昭和 47 年 5 月 医学部、水産学部設置（三重県立大学から移管）
昭和 50 年 4 月 大学院医学研究科博士課程設置
昭和 53 年 4 月 大学院工学研究科修士課程設置
昭和 58 年 4 月 人文学部設置
昭和 62 年 10 月 生物資源学部設置
昭和 63 年 4 月 大学院生物資源学研究科修士課程設置
平成元年 4 月 大学院教育学研究科修士課程設置
平成 3 年 4 月 大学院生物資源学研究科博士課程設置
平成 4 年 4 月 大学院人文社会科学研究科修士課程設置
平成 7 年 4 月 大学院工学研究科博士課程設置
平成 13 年 4 月 大学院医学研究科修士課程設置
平成 14 年 4 月 大学院医学研究科を大学院医学系研究科へ名称変更
平成 16 年 4 月 国立大学法人三重大学へ移行
平成 21 年 4 月 地域イノベーション学研究科設置
平成 26 年 4 月 共通教育センターを教養教育機構へ改組

■構成人員（平成 26 年 5 月 1 日現在）

学生数／学部学生 6,148 名 大学院生 1,150 名 計 7,298 名

教育学部附属学校／幼稚園 136 名 小学校 613 名

中学校 428 名 特別支援学校 54 名 計 1,231 名

職員数／大学教員 776 名 附属学校教員 87 名 その他職員 989 名 計 1,852 名

■土 地／5,511,692 m²（借受地 92,065 m²）

■建 物／326,695 m²

■所在地／〒514-8507

三重県津市栗真町屋町 1577

電話 059-232-1211

ホームページ <http://www.mie-u.ac.jp>

三重大学の概要 (3/5)

☆三重大学キャンパスマップ☆



三重大学概要（4／5）

☆会場となる三重大学施設の概要☆

■三重大学環境・情報科学館【平成 24 年建築、鉄筋コンクリート造 3 階建て、延べ面積 2,173 m²】

環境・情報科学館（メープル館）は、平成 24 年 4 月オープンしました。同館は、世界一の環境先進大学を目指す三重大学の環境・情報の発信拠点として、また、三重の環境を知って考える学習の場として、環境教育実践の核になる拠点としての役割を担っています。そのため、本学の学生や教職員だけでなく地域住民も利用できる建物となっています。

1 階は交流スペースで、研究成果を分かりやすく展示し、環境を学べるコーナーを設置し、環境団体や企業、自治体などと連携し、環境教育の情報発信拠点となっています。一般市民も自由に展示物を見ることが出来ます。

2, 3 階にはインターネット回線や遠隔地と映像と音声で通信ができるスペースが設けてあるなど情報設備を充実しており、学生らが少人数グループで自由に学習に利用できる自習スペースとなっています。

また同時に、実用レベルに至った最新環境技術を導入した環境配慮型建築物で、屋上に設置してある 20 Kw の太陽光パネルによって同館で使用する電気の一部を賄うほか、屋根の熱負荷を低減するために屋上緑化、外壁の熱負荷低減のために壁面緑化や開口部には複層ガラスを採用してあります。また地下水を利用した空調システムも導入することにより、更なる節電を図っています。

これらの結果、同館は、環境に配慮した建物として、CASBEE—新築（簡易版）で S クラスの評価を受けています。



外観



内観

■CASBEE（建築環境総合性能評価システム）

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)

建物の環境性能を総合的に評価、格付けする手法で、国土交通省の主導の下、省エネや資源の有効活用など環境負荷を低減させる側面と居住者の快適性や景観への配慮など環境品質を高める側面の双方を総合的に評価し、「S」「A」「B+」「B-」「C」の 5 段階で格付けします。CASBEE S クラスは最も環境効率の高い建築物としての評価となります。

CASBEE は、環境配慮設計のための自己評価ツールや、資産評価のラベリングツールとして、国や地方自治体の環境施策への利用などさまざまな目的で活用が広がっています。

三重大学概要（5／5）

☆会場となる三重大学施設の概要☆

■三重大学レーモンドホール【昭和 26 年建築（昭和 44 年移築）、木造平屋建、延べ面積 230 m²】

レーモンドホールは三重県立大学（昭和 25 年創設）の図書館として、アントニン・レーモンドの設計により、昭和 26 年に津市大谷町（現三重県教育センター・三重県立美術館所在地）に建築されました。当時は、閲覧室の東側に池があり、開放的な閲覧室と池の間は“OUTDOOR READING”と設計図に記されています。屋外空間を建物の一部に取り込んだ設計であったと思われます。

国立三重大学との統合のため、昭和 44 年に現キャンパスへ移築および一部増築され、水産学部の食堂に転用されましたが、昭和 62 年の水産学部の生物資源学部への統合改組、平成 2 年の生物資源学部新校舎への移転に伴ってその役割を終えることになりました。

本学では、その歴史に関わる記念的建造物として、保存活用を図るために、設計者アントニン・レーモンドにちなんで名称も「レーモンドホール」と改称し、平成 15 年 3 月 18 日、登録有形文化財へ登録されました。その後、応急的な修繕を行い、暫定的な活用を図ってきましたが、平成 25 年度に耐震改修および復原工事を行い、平成 26 年から本格的な活用を開始しました。

またレーモンドホールは、本学の美術や文化など自らの成果発表および地域の文化向上へ寄与できる展示・催物を行う、文化的拠点としての役割を担っており、平成 26 年 11 月 10 日～12 月 25 日には「映画『WOOD JOB!』と三重大学演習林」企画展示が開催されます。（ポスターは P.34～35）



外観

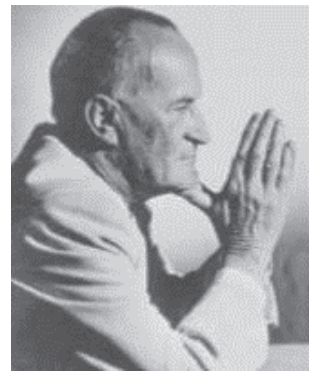


内観

■アントニン・レーモンド（Antonin Raymond 1888～1976）

アントニン・レーモンドはボヘミア（現チェコ共和国）生まれの近代建築家。初来日は大正 8 年、帝国ホテル設計を依頼されたフランク・ロイド・ライトに伴われてでした。しかし、翌年には独立し、日本における国際様式建築の先駆者となりました。戦中戦後は離日しますが、昭和 23 年には日本での建築活動を再開します。レーモンドホールは昭和 26 年建築であり、活動再開後、間もない時期の作品となります。

日本におけるモダニズム建築の先駆者で、前川國男、吉村順三、ジョージ・ナカシマ、増沢洵などの日本人建築家を門下から輩出しています。



会場図 - I

★久居グリーンホテル周辺図

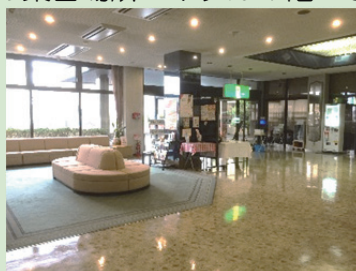


宿泊者宿泊場所

<ホテル外観>



<点呼時の集合場所：ホテル1階ロビー>



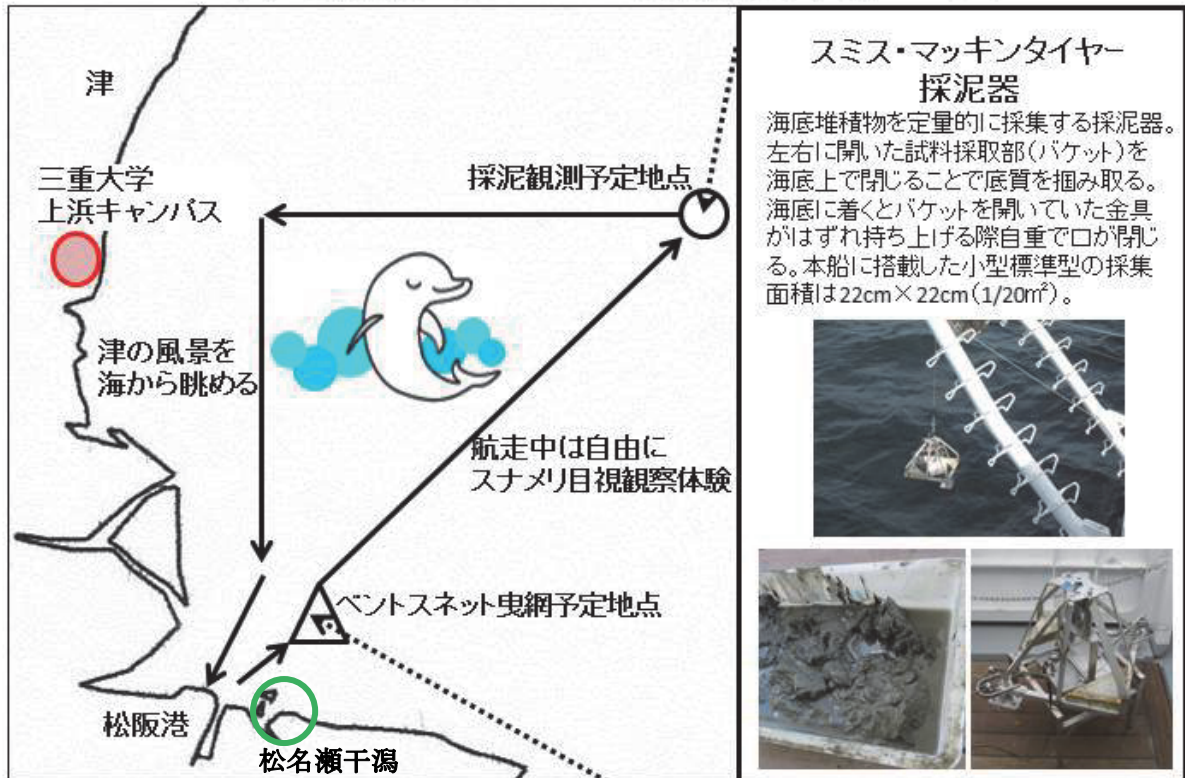
<朝食場所：1階「花びし」>



会場図 - II

★勢水丸 航路図

一目で分かる！！ 勢水丸クルーズ

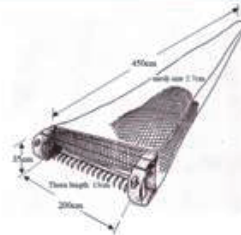


ベントスネット

比較的小規模の底生生物採集漁具。従来から伊勢湾等の浅海域を中心に広く使われている。網口には鋼製の爪があり、海底を引っ掻くようにして底生生物(ベントス)を採集する。網口に取り付けた深度センサーの水深とその場所の水深を比較し、ネットの着底を判断する。

漁具寸法

網口高さ : 35cm
 網口幅 : 200cm
 網の長さ : 450cm(網口から袋網まで)



スナメリとは.....

頭は丸く、クチバシはない。背びれの代わりに背中の中正線に沿って高さ1cm程度の隆起がある。新生児の体色は黒褐色だが、成長すると全身明るい灰色になる。死後時間が経つと黒褐色に変色する。約80cmで出生し、雄1.8m、雌1.6m程度まで成長する。日本では4～5月に出産する。妊娠期間は約11ヶ月。ペルシャ湾から日本本州中部にかけてのアジアの大河および沿岸域に生息する。日本では伊勢湾と瀬戸内海に周年生息する。分布温度は5～28℃。単独か数頭の小さな群で見られる。



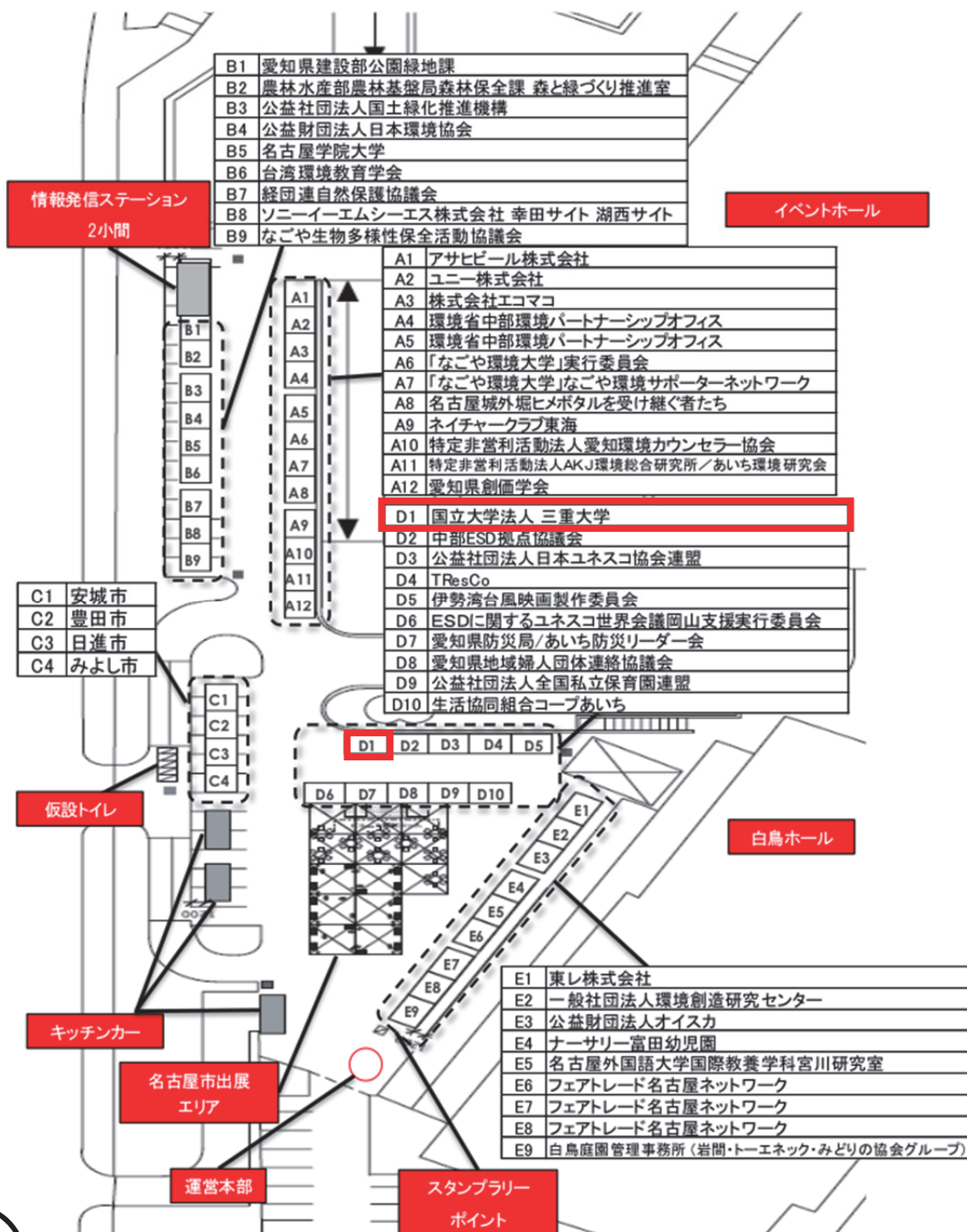
会場図 - Ⅲ

★「あいち・なごや ESD 交流フェスタ」会場図 (名古屋国際会議場 西側駐車場)

(「あいち・なごや交流フェスタ」出展マニュアル より)



会場構成 11月10日～12日(月～水)



資料 - I (1/2)

★勢水丸

■学習概要

三重大大学の練習船^{せいすいまる}勢水丸に乗船し、船上にて松名瀬干潟沖の観測およびスナメリの観察を行います。また、ベントスネットを使った生物調査見学やスミス・マッキンタイヤー採泥器を使用した海底堆積物の観察を行います。これらにより陸と海洋の環境や生物多様性について考え、環境保全・継承の重要性や国際環境協力の大切さを学びます。

■練習船「勢水丸」

伊勢湾・熊野灘から本邦南方黒潮海域、小笠原諸島周辺海域、東シナ海を実習海域に、陸地を離れ海に身を置いて現状を確認しながら学習する「洋上実験室・研究室」として、水産学・海洋学に関する実習・調査を行う三重大大学所有の練習船です。

生物資源に関する実習や海洋観測、大気観測などの研究活動が機能的に行えるよう観測設備を備え、船底には計量魚群探知機、多層式超音波流向流速計、海底地形探査装置などの音響機器を装備しています。また、船の推進には電気推進システムを採用し、船内電源との共通化により効率的なエネルギー管理ができ、環境負荷が少ない船となっています。

【主要目】

所 有 者：国立大学法人三重大学
竣 工：2009年1月30日
長 さ（全長）：50.90m
幅 （型）：8.60m
深 さ（型）：3.75m
総トン数：318トン
航海速力：12ノット



■スケジュール

Aコース	Bコース	＜ 実施内容 ＞
09:00	14:30	バス到着、岸壁に集合（点呼）、船長挨拶
09:15	14:45	乗船完了（船尾デッキに集合）、諸注意など
09:30	15:00	松阪港出港
09:40	15:10	松阪航路付近でベントスネット ^{ひきあみ} 曳網、採集物の見学
10:10	15:40	伊勢湾中央部で採泥観測、採集物の見学
10:20	15:50	三重県沿岸を航走、自由に風景見学、スナメリ観察
11:10	16:40	松阪入港準備、乗船者は下船準備
11:30	17:00	入港着岸、下船、岸壁に集合（点呼）
12:00	17:30	バス出発

資料 - I (2/2)

★勢水丸



ベントスネットを使った
海洋生物観察



スミス・マッキンタイヤー
採泥器を使った堆積物観察



スナメリの目視観察
松名瀬干潟観察

■注意事項

- 船の係の人の指示に従ってください。
- 許可されている場所以外に近づかないでください。
- 船上は揺れる場合があるので、転倒に注意してください。
- 船上は段差のある場所や濡れている場所が多いので、足元に注意してください。
- 船上は出入口など天井が低い場所が多いので頭上にも注意してください。
- 船上では、走り回らないでください。
- 船のドアは頑丈にできているので、開閉は静かに行き、また手などを挟まないよう十分注意してください。
- 転落の危険があるので、船からあまり身を乗り出さないでください。
- 運転中の機械類に不用意に近づいたり、触ったりしないでください。（※ウインチ類に巻き込まれる危険性があります）
- 船尾の柵は低くなっているので、近づかないでください。

■持ち物、服装

- 長ズボン、運動靴（※スカート不可。長ズボンはベルトを着用してください。
また、必ず運動靴で参加して下さい。クロックス等のサンダルや下駄、かかとの高い靴は不可。）
- 飲み物
- 乗り物酔いの薬（必要な方のみ）

★MEMO★

資料 - II (1/4)

★海の博物館・海女小屋（国崎）

■学習概要

海の博物館や海女小屋などを見学し、里海や海女文化について知ると共に、海と人間との共生、伝統文化の継承について考え、里海の保全・継承について文化という側面から学びます。それらを通じて、これから自分たちが果たす役割や伝統・文化の保全・継承について考えることを目的とします。

■海の博物館

海の博物館は、「海民^{かいみん}」と呼ばれる漁師さん・船乗り・海女そして海辺に住む人が、海と親しく付き合ってきた歴史と現在、さらに未来を伝える『海と人間』の博物館です。漁撈^{ぎょうろう}道具や木造船などの実物資料が約 60000 点、さらに写真などの記録資料も豊富に所蔵しています。人間と海に関わることならば、詳細な資料でも目に触れることができます。



勢水丸から実際に見る海に関して、数々の展示を見学することで理解を深めます。

■海女小屋（国崎）

鳥羽市国崎町は親潮と黒潮の会える海域が目の前に広がり、海産物が豊富に採れることから、昔から海女漁を中心とした漁業が盛んに行われてきました。現在の海女の着衣は白い磯着から黒いウエットスーツに変わりましたが、その漁法は素潜り漁で今も昔と変わっていません。実際に海女さんが体を休めるために使っている海女小屋で、現役の海女さんから素潜り漁や海辺の生活についてお話をうかがいます。



■ 国崎

・御料 鰻調進所

伊勢神宮に献上される「熨斗あわび^{のしあわび}」が作られています。二千年の伝統を受け継いでおり、平成 16 年に三重県無形民俗文化財に指定されました。

・国崎灯台

国崎は志摩半島の最東端に位置し、太平洋と熊野灘^{くまのなだ}に面しています。昔から船乗りの間では伊勢志摩の海の難所として知られてきました。

・海士潜女神社

倭姫命^{やまとひめのみこと}に鮑^{あわび}を献上したといわれる伝説の海女「おべん」が祀られています。



国崎全体地図（国崎町町内会 HP
<http://kuzaki.jp/html/kuzaki/html>）

資料 - II (2/4)

★海の博物館・海女小屋（国崎）

■海女文化について

「海女」は日本列島と韓国の済州島ちよしゅうとうにおいて二千年以上の伝統をもつ、女性による海底への素潜り漁法で、アワビ、サザエ、ウニ、ナマコそしてアラメや天草などの海藻を採り続けてきました。そのような漁と一体となった暮らしや信仰は「海女文化」を成してきました。志摩半島には、全国 2,200 人（平成 22 年）の海女のうち、約半数に当たる 973 人の海女が、今も健在しています。



海女の漁の様子（志摩市ホームページより）

ところが、近年全国的な海女の減少が見られ、平均年齢も60歳代と高齢化しつつあります。二千年以上の歴史を持つ「海女文化」をこれからも活性化させるためにも、海女の漁獲物であるアワビ、サザエなどの磯根資源の回復が必要とされます。平成 19 年からは、韓国済州島の「海女博物館」と三重県鳥羽市の「海の博物館」が連携し、海女文化を東アジアの価値ある資源と位置づけて、ユネスコ無形文化遺産への登録を目指す取り組みが始まりました。

■スケジュール

Aコース	Bコース	< 海の博物館 >
13:30	10:00	映画上映（海女について）
13:50	10:20	展示A棟（学芸員によるガイド）
14:10	10:40	展示B棟（学芸員によるガイド）
14:30	11:00	自由見学（特別展示室、船の収蔵庫）
15:00	11:30	バス乗車



海の博物館での見学・学習

		< 海女小屋（国崎） >
15:30	12:00	海女小屋見学 （※海女は漁に出ている場合があります）
16:00	12:30	鎧崎散策 （御料 鰻 調進所→鎧崎灯台 →海士潜女神社）
16:30	13:00	バス乗車



鎧崎の散策（国崎旅館組合 提供）

☆海女あまってなに？☆

■基礎知識

- ・「海女」は、素潜りで貝や海藻を採ることを主な仕事にする女性のことを言う。
- ・日本では五千年以上前から存在している。縄文遺跡からアワビの殻やアワビを岩からはがす道具であるアワビオコシが出土している。
- ・皮下脂肪が男性と比べ多く、寒さに耐えられるなどの理由から女性が適しているとされる。

資料 - II (3/4)

★海の博物館・海女小屋（国崎）

■海女の所在、人数、漁獲物

- ・世界中で日本と韓国のみ（韓国では 1880 年代まで済州島のみ）
 - ・日本で確認されている人数は 2,174 人（2010 年 海の博物館調査）
- 1 位三重県 973 人、2 位石川県 197 人、3 位千葉県 158 人、4 位静岡県 153 人
- ・済州島では 4,881 人（2012 年）、韓国本土では未確認ながら 5,000 人以上いると言われている。
 - ・三重県の海女による漁獲物…アワビ、サザエ、ウニ、ナマコ、イセエビ、タコ、ワカメ、ヒジキ、テングサ、モズク

■漁の規制

- ・三重県の条例…アワビ 10.6cm 以下、サザエ 2.5cm 以下は採捕禁止。禁漁期間はアワビの場合、9 月 15 日～12 月 31 日。
- ・その他、1 日の潜水時間や身につけるものに制限があります。

■海女がユネスコ世界文化遺産に推薦される理由

- ①素潜り漁という特別な技術を身に付け、生業とする女性である。

道具はアワビオコシと水中メガネ、ウェットスーツのみで、潜水機器を一切使わない。自分の身体を使い、自分の頭脳で判断し潜水し、獲物を採捕する優れた技術を持っている。

- ②五千年の歴史が受け継がれている

五千年以上も昔の縄文時代の遺跡からシカの角やクジラの骨で作ったアワビオコシが出土し、現在も海女は健在である。

- ③持続的な生産方式

アワビ、サザエ、海藻などの資源を採り過ぎず、漁と暮らしを持続的にするべく、乱獲をしない約束を守ってきた。

- ④漁村の共同体維持の要である

漁村の生活を支える海の資源を公平に配分するためには共同体の維持が不可欠である。海女は働くだけでなく、子を産み育てることで共同体の維持の要となる。

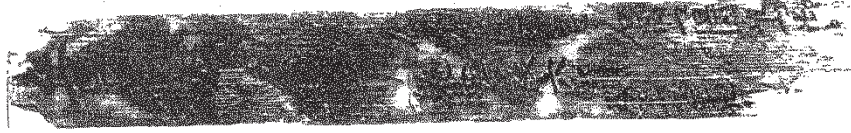
- ⑤海の自然環境を守る

海女が潜る磯は、陸でいう「里山」に対する「里海」である。「里海」は人間も手伝いながら、良好な自然環境が保たれている。

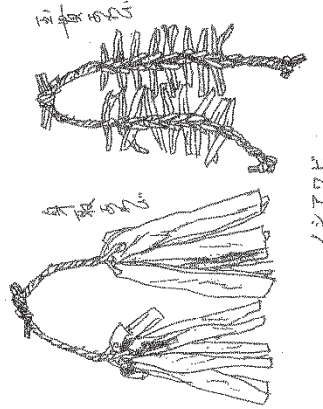
資料 - II (4/4)

★海の博物館・海女小屋（国崎）
☆海女関連資料（海の博物館 提供）☆

海の博物館



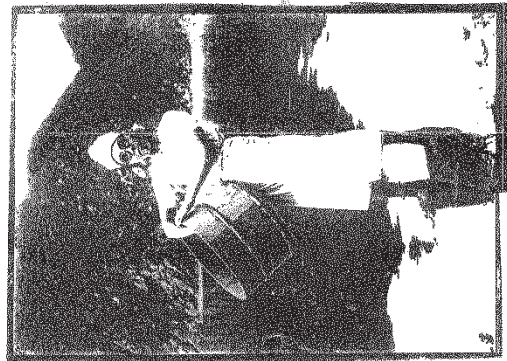
平城宮跡出土木簡
745
左中央に『耽羅鏡』とある。



「水鏡」1705 御師のノシアワビ



「日本山海名産図会」伊勢鏡 1799



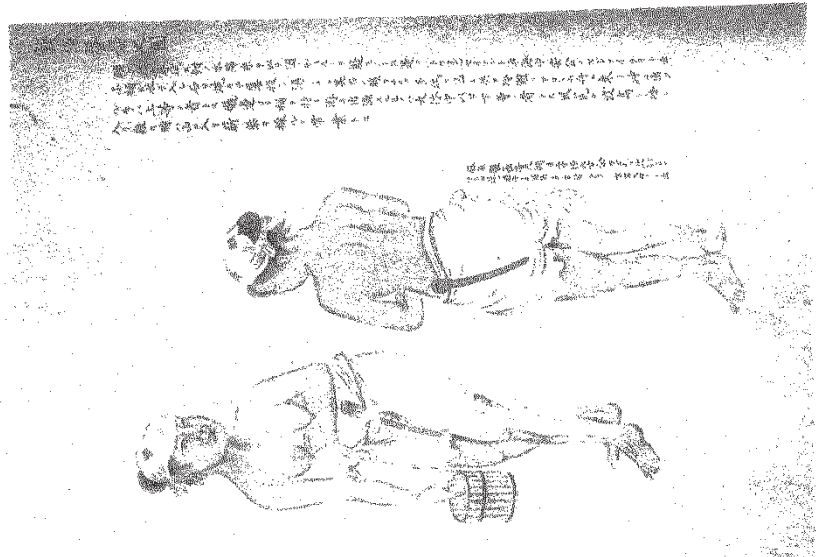
1935年頃の海女



現在の「船人」海女



「白浜遺跡」出土のアワビオゴシ（鹿角製）



「三重県水産図説」鰻魚産婦之図 1884

資料 - Ⅲ (1/3)

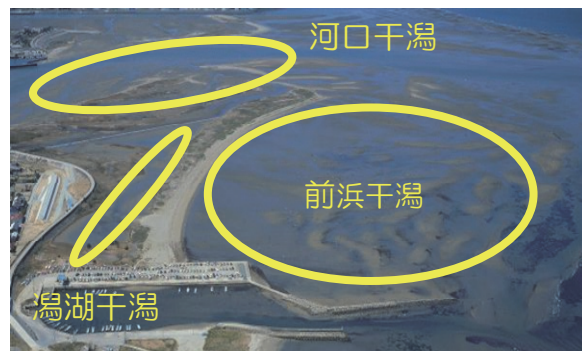
★松名瀬干潟

■学習概要

松阪市にある松名瀬干潟にて AQUA SOCIAL FES!! (詳細は下記記述) の一環として清掃活動と観察会を行います。これらの清掃活動と観察会を通して自然豊かな水環境を未来へ残すための周知・啓発をします。

■松名瀬干潟について

三重県松阪市にある松名瀬海岸は、^{くしだがわ} 櫛田川河口に広がっており、伊勢湾最大級の干潟を有しています。この干潟は^{かたこひがた} 潟湖干潟、^{まえはまひがた} 前浜干潟、^{かこうひがた} 河口干潟の3つに分かれ、それぞれの干潟で海浜植物や水生生物、鳥類などにより豊かな生態系が築かれていることから、環境省より「重要湿地 500」に指定されています。しかし、潮干狩りや海水浴などで賑わうこの干潟は、近年ゴミ



松名瀬干潟の全景

■AQUA SOCIAL FES!!について

AQUA SOCIAL FES!!とは、トヨタ自動車株式会社の社会貢献活動で、水をテーマにした自然環境を保護・保全する活動の支援を全国各地で行っています。三重県からは三重大学の活動が取り上げられ、今回は三重大学環境 ISO 学生委員会と三重大学国際環境教育研究センターが主催となって活動を実施します。(ポスターは P.33)



第 1 回 AQUA SOCIAL FES!!集合写真

① 清掃活動

広大な松名瀬の干潟で、約 1 時間かけて参加者全員で清掃を行い、自然豊かな水環境をみんなで協力して取り戻します。また、ゴミは松阪市のゴミ分別に従って可燃物と不燃物、危険物の 3 分別で、参加者同士で協力しながら行います。

ちなみに、8 月にも同様の活動を行い、45L のゴミ袋 202 袋分のゴミを回収しました。



清掃中の写真

資料 - Ⅲ (2/3)

★松名瀬干潟

② 環境学習

三重大学環境 ISO 学生委員会と地元の三重中学校、三重高校が協力して、松名瀬干潟に生息する貝やカニなど多種多様な生物について紹介します。天然記念物や準絶滅危惧種など、貴重な生物も多数記録されています。※観察できる生物は季節や時刻などその時々によって変わります。

※下の写真は当日観察する予定の貝です。
それぞれの貝の見分け方や、特徴を紹介します。



環境学習中の写真



フトヘナタリ



ヘナタリ



ウミニナ



ホソウミニナ

■スケジュール

- 9:00～ 松名瀬干潟到着、その後オリエンテーション
- 9:15～ 受付開始
- 9:30～ 開会式
- 9:50 清掃場所へ移動
- 10:00～ 清掃活動開始
- 10:50 清掃終了
- 11:00～ 環境学習開始
- 12:00 環境学習終了
- 12:15～ 閉会式
- 12:30～ 昼食交流会
- 13:00 バス乗車

■注意事項

- ・当日はスタッフの誘導に従ってください。
- ・具合が悪くなった場合は無理をせず早めにお近くのスタッフに声をかけてください。
- ・小雨であればイベントは決行します。

資料 - Ⅲ (3/3)

★松名瀬干潟

■持ち物、服装

- 動きやすく、汚れても良い服装
- 汚れてもよい靴
- タオル
- 水分（500ml のペットボトルをひとり一本こちらで用意します。）

※清掃で使用する軍手、ゴミ袋、火ばさみはこちらで用意します。

★MEMO★

資料 - IV (1/2)

★斎宮歴史博物館

■学習概要

三重県にある斎宮歴史博物館、いつきのみや歴史体験館、斎宮跡の復元現場を通して文化・伝統の保存・継承について体験し、考え、学ぶことを通じて「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）コース宣言」を考えるきっかけとします。

■斎宮歴史博物館

7世紀から14世紀にかけて、伊勢神宮に天皇の代わりにお仕えした未婚の内親王または女王（親王の娘）の宮殿を斎宮さいくうといいます。斎宮跡の一角に建つ斎宮歴史博物館では、天皇が即位する度に選ばれて伊勢神宮に仕えた斎王の暮らしや斎宮の歴史を出土品や模型、映像資料などを使って学習します。



博物館の概観

■斎宮跡

斎宮跡は、昔設置された斎宮（斎王の居住した宮殿と、役所・斎宮寮さいくうりょう）を中心とする遺跡です。松阪市と伊勢市にはさまれた多気郡明和町に所在し、その規模は、東西約2キロメートル、南北約700メートルにおよび、約137ヘクタールもの広大な面積が国史跡に指定されています。

斎宮跡は史跡として、地域の皆様600世帯2,000人の理解を得て、地域の人々が中心となり、古代からの景観をそのままに保全する取り組みを行っています。

■いつきのみや歴史体験館

いつきのみや歴史体験館は斎宮が最も栄えた時代を中心に、歴史や文化を身近に体験・学習することができます。また、当施設の北側に1/10に縮小した斎宮跡模型では、発掘調査成果に基づいて復元した建物群も見ることが可能です。

■復元建物建築現場

今回はいつきのみや歴史体験館近くにある、最盛期の斎宮の復元建物建築現場へ見学に行きます。当時の建物をそのままに再現し、現代の耐震性たいしんせいを得るために、柱に鉄心を入れ周りを木で囲むという文化遺産の復元でも類を見ない技法が使われています。作業現場を見学することで、いにしへの斎宮を肌で感じることができます。

■スケジュール

14:00～ 斎宮歴史博物館にて映像上映

14:20～ 常設展示に2グループ、発掘資料の1グループの計3グループに分かれ、見学・学習

15:20～ いつきのみや歴史体験館へ移動途中、ガイドによる斎宮跡の解説

15:50～ いつきのみや体験館と復元建物建築現場の2グループに分かれ、見学・学習

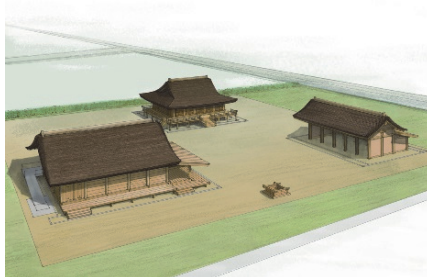
17:00～ バス乗車

資料 - IV (2/2)

★斎宮歴史博物館



斎宮歴史博物館での見学・学習



復元建物建築現場の見学

(斎宮歴史博物館提供)



いつきのみや歴史体験館での体験

■注意事項

- ・係員の指示に従ってください。
- ・当日は、斎宮歴史博物館からいつきのみや体験館まで徒歩で行きますので運動靴を推奨します。
- ・復元現場へ入る際は、ヘルメットを着用します。

★MEMO★

資料 - V (1/2)

★三重県総合博物館

■学習概要

三重県総合博物館には、三重県地域の自然、生物、歴史、文化、伝統など、たくさんの資料が収蔵されています。これまでに行われてきたエクスカーションに関連した展示も数多く、総合的に学ぶことができます。それらの展示を見学し、学びと体験の記憶を甦らせ、午後からの分科会において持続可能な社会づくりに向けた取り組みについて検討し、自分たちが果たす役割について考える準備をします。

■三重県総合博物館について

三重県総合博物館の前身である三重県立博物館は、1953年に東海地方で初めての総合博物館として三重県津市に誕生し、60年にわたり三重の自然や歴史・文化に関する博物館活動を展開していました。

2014年4月に開館した三重県総合博物館は、「三重が持つ『多様性の力』」をテーマに、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動理念とし①三重の資産の保全・継承、②人づくりの貢献、③地域づくりへの貢献の3つの使命を達成することを目指しています。

展示室では、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化が持つ多彩な魅力や特色を、360°連続する三重の美しいパノラマに包まれた展示空間の中で、一体的に紹介しています。展示から三重の特徴と力を感じること、ご自分が暮らす地域のことを考えてみる材料にしてください。



三重県総合博物館

■展示の様子



あのつみなと
安濃津湊のジオラマ



スナメリの模型



まつなせ
松名瀬干潟の展示

■スケジュール

- 9:00～ レクチャールームにて、館長の講演を聞きます。
- 9:40～ 10人のグループに分かれ、基本展示室・企画展示室を見学します。
- 11:30～ バス乗車

資料 - V (2/2)

★三重県総合博物館

■注意事項

- ・フラッシュ撮影はご遠慮ください。
- ・三脚のご使用はご遠慮ください。
- ・展示室等での飲食はご遠慮ください。
- ・展示室での携帯電話の通話はご遠慮ください。
- ・展示物にお手を触れないでください。

基本展示室概要

- 三重の多様で豊かな自然
- 三重をめぐる人・モノ・文化の交流史
- 自然とともに生きる



ポスター - I

★AQUA SOCIAL FES!!2014 in 松名瀬



三重県：伊勢湾再生プロジェクト

伊勢湾を臨む海岸を再生し生物多様性を学ぶ

第2回：陸から海から干潟の生物多様性を学ぼう in 松名瀬海岸

第1回に続き、伊勢湾最大級の干潟の生態系を守るため、松名瀬海岸をみんなで清掃します！
清掃後は干潟に生息する生物の観察会も行ないます。

目的：海岸を清掃して、自然豊かな水環境を取り戻すとともに周知・啓発活動を実施する。

開催日時：2014年11月8日(土)9:30～12:00 (受付9:00～)

開催場所：松名瀬海岸・松名瀬干潟

集合場所：松名瀬海水浴場駐車場周辺(松阪市松名瀬町)

募集人数：100人

募集期間：2014年9月26日(金)～10月24日(金)

参加条件：中学生未満の方は、保護者の同伴が必要です。
注意事項：お申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます。
駐車場をご用意しておりますので、お車でお越しください。
動きやすく汚れてもよい服装でお越しください。
帽子、着替え、防寒具、長靴、雨合羽、お飲み物は各自お持ちください。
小雨決行ですが、荒天の場合は順延とさせていただきます。
※順延日は伊勢新聞社公式ホームページ等でお知らせします。



トヨタのハイブリッド

AQUA

主催：三重大学国際環境教育研究センター、三重大学環境ISO学生委員会／共催：伊勢新聞社／後援：三重県、松阪市、松阪ユネスコ協会、松名瀬観光協会、松阪漁業協同組合

○トヨタ「AQUA SOCIAL FES!! 2014」の公式Facebookページはこちら → [facebook.com/aquafes](https://www.facebook.com/aquafes)

○AQUA SOCIAL FES!! 事務局 0120-033-213 ※平日 9:00～18:00(土日祝は休み)

FUN TO DRIVE, AGAIN.

ポスター - Ⅱ (1/2)

★「映画『WOOD JOB!』と三重大学演習林」企画展示



と 三重大学 演習林

～御神木が三重大学に来た!～

三重大学ミュージアム構想 特別企画

「自分たちは、顔も知らない曾じいさんあたりが植えた木を伐って稼いでいる。」

いま植えている苗は、自分らが死んだ後に孫やひ孫が伐って生活の糧にするんだ」

映画でも使われた、ある林業家の台詞です。林業は、何世代にもわたる、長い長い時間が必要な仕事です。

三重大学生物資源学部では、その前身の三重高等農林学校以来、林業や森の生態の研究・教育を行ってきました。

津市美杉町川上にある演習林は、林業家を育てる場となると共に、紀伊半島の昆虫や動植物の調査研究の中心地でした。

このたび、三浦しをん『神去なあなあ日常』を原作とする映画〈WOOD JOB!〉の舞台として

津市美杉地区が取り上げられ、三重大学演習林も研修所として登場しました。

この展示を通して、映画〈WOOD JOB!〉の楽しさを思い起こし、

同時に三重大学演習林の活動と、林業の現状と可能性を知って頂ければ幸いです。

期間 | 2014.11.10^月～12.25^木 平日10:00～16:00

会場 | レーモンドホール／環境・情報科学館

後援：津市、WOOD JOB! 神去村青年団

 三重大学

ポスター - II (2/2)

★「映画“WOOD JOB!”と三重大大学演習林」企画展示

展示のご案内

レーモンドホール

● エントランス

三重大大学演習林学舎は、映画WOOD JOB!の中で「林業技術研修センター」になっていました。そのセンターの門柱が会場に入ってすぐに目に飛び込んで来ます！まずは見て触って、映画の世界に入り込んでください!! 映画セットの素材と仕上りのギャップに驚かれるかも知れません。

● “映画WOOD JOB!”撮影の舞台裏と林業道具展示ゾーン

登場人物のプロフィールを紹介したパネルや舞台裏の写真を多数展示。また、映画に登場したグッズもありますので、映画の奥の奥まで覗けます。さて、「御神木」の正体は・・・そして、映画に出てくる様々な林業道具（演習林所有物と津市美杉ふるさと資料館所蔵の資料）も展示します。映画の場面を思い出しながら、林業道具の奥深さに触れてみてください。

● WOOD JOB!プチ体験ゾーン

林業に必要なロープワークの体験や、神去村（美杉）で取れる木の実を手で触られます！

● “林業技術研修センター”の舞台「三重大大学演習林」

三重大大学演習林は、昭和2年に旧学舎が建築され、約90年の間、紀伊半島の林業を牽引する人材を輩出し続けて来ましたが、林業技術の向上・伝承とともに、自然環境の研究・維持に努めてきました。今回はほんの一部になりますが、美杉・平倉演習林の歴史と自然、そして、そこに息づく生物に関する資料・標本を通して、三重大大学演習林を少しでも皆さんにわかって頂きたいと思っています。

● 現代の林業とこれからの林業

木材価格の下落、植林地の荒廃、獣害、後継者不足など、現代の林業は多くの問題を抱えています。一方で、温室効果ガス（CO₂）削減や防災のための森林整備など、林業の将来に期待する声が大きくなりつつあります。このような林業を取り巻く環境を皆さんに知っていただくためのゾーンです。

御神木について

映画のクライマックスの祭りシーンに登場する“御神木”を展示します。まずは大きさにびっくり、そして構造を見て2度びっくりすること間違いなし！この御神木を見れば「WOOD JOB!通」になれると思います。



環境・情報科学館(第二会場)

※こちらの会場は期間中、他のイベント等の開催によりご覧にならない場合がございます。ご来場の際は、まずはレーモンドホールにお立ち寄りになり、開館をご確認の上でお願いします。

● 映画の舞台“美杉”の魅力

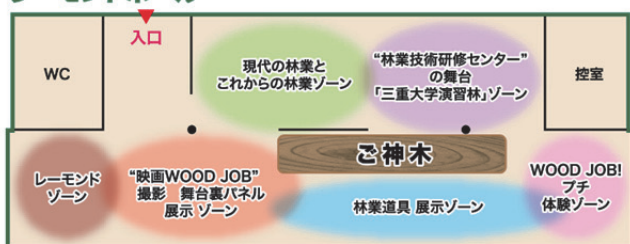
美杉の林業を支えた森林環境や、豊かな自然の中を、名松線（現在は停止中）の汽車が走る素晴らしい風景を知って頂くための展示ゾーンです。また、映画WOOD JOB!「神去村」の全景を見ることが出来るジオラマ模型も展示しています。



環境・情報科学館 [1F南側]



レーモンドホール



※ゾーン配置は変更になる可能性があります。

● 会場アクセス

1. 津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで「白塚駅」、「太陽の街」、「三重大病院」、「椋本（むくもと）」、「豊里ネオポリス」、「三行（みゆき）」行きで、「大学病院前」下車。「大学病院」行きで「大学病院」下車。バスで約10分。
2. 津駅からタクシーで約10分。
3. 近鉄江戸橋（三重大大学前）駅から徒歩で約15分。

※公共交通機関でのお越しをお願いします。

問い合わせ

三重大大学施設部施設企画チーム
TEL 059-231-9966
E-mail: raymond-sisetsu@ab.mie-u.ac.jp

● ご案内図



ポスター - Ⅲ

★三重大大学ユネスコスクール／シンポジウム 2014

平成26年 日本／ユネスコパートナーシップ事業

ESD

三重大大学は11月7日～12日に
ESD in 三重を開催しました。

持続可能な開発のための教育 **ESD**

2014年 入場無料

12月6日 土

14:00～17:00

環境・情報科学館
1階ホール

<プログラム概要>

- ・ 三重大大学活動報告（三重大大学理事・副学長 朴 恵淑）
- ・ 基調講演（文部科学省 国際統括官 加藤 重治 氏）
- ・ ユネスコスクール活動事例報告
- ・ アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言
- ・ グローバルアクションプログラム発表

持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議

＜ 概 要 ＞

1992年の「環境と開発に関する国連会議」および2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）」を踏まえて、2005年からスタートした「国連持続可能な開発のための教育の10年」も取り組みの最終年を迎え、平成26年11月10日～12日に、愛知県名古屋において“持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議”が開催されます。

ESDの10年は、日本においては「環境教育推進法」（平成23年に「環境教育等促進法」と名称変更）の制定や教育基本法の改正（平成18年）や改訂学習指導要領などに影響を与え、ESDや環境教育の取り組みの強化が進みました。そして、世界では、すでに2012年の「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」において2015年以降も国連がESDに取り組むことが決議され、2015年に最終年を迎える国連ミレニウム開発目標（MDGs）の後継となる国連持続可能な開発目標（SDGs）においても「教育」が主要な指標として位置づけられており、ESDの推進に期待が高まっています。

本学は、ユネスコ世界会議に合わせ、ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会のパートナーシップ事業として「ESD in 三重 2014」（11月7日～12日）を開催します。

＜三重大大学のESD活動＞

本学は、全学的な取り組みとして、平成21年8月に日本の総合大学初となるユネスコスクールに加盟し、ASPUnivNet(Associated School Project University Network)のメンバーとして三重県のユネスコスクール活動の活性化に貢献しています。ユネスコスクールは持続可能な開発のための教育（ESD）の推進拠点であり、環境学習・国際理解学習・エネルギー学習・世界遺産・地域の文化財等に関する学習などのESDの基本的な考え方に関する教育・持続可能な社会づくりのための担い手づくりを育む教育などに取り組んでいます。大学自身もさまざまなESD活動を行うことで、大学の社会的責任（USR）を果たし、これらの活動を通してグローバル人材を育成しています。



★MEMO★

その他

■持ち物

・11月8日（土）の松名瀬干潟清掃に参加される方は、砂浜や干潟等に入るため、汚れてもよい履物を持参してください。

・必要なもの（タオル、雨具、飲み物、筆記用具、酔い止め薬等）は、各自持参してください。

※11月8日（土）の松名瀬干潟清掃については、タオル・飲み物を配布します。

■緊急連絡先

国際環境教育研究センター支援室（担当 亀山）

・059-231-9976（昼間はスタッフ常駐、緊急時は転送されます）

■事故防止

・台風・暴風時：警報発生→各日のプログラム毎に判断

・大雨・強風時：伊勢湾洋上国際環境学習および松名瀬干潟 ESD プログラム中止

海の博物館／海女小屋（国崎）見学等実施（状況判断要）

斎宮歴史博物館での ESD プログラム実施（状況判断要）

上記プログラムが中止の場合は三重大学環境・情報科学館 1 階ホールにて

代替プログラム実施（状況判断要）

・全参加者および関係者の緊急連絡網構築

・三重大学は、防災訓練などにより緊急事態の対応について定期的に見直しを行うと共に、不具合・効果等の有無について確認を行っており、緊急事態が発生した場合、全教職員は、緊急事態対応手順書に従い処置を行う。

■廃棄物対策・温暖化防止対策

・三重大学環境方針に準ずる。

<https://www.mie-u.ac.jp/activity/environment/environmentline.htm>

■問い合わせ・連絡先 欠席時、緊急時、お問い合わせは下記までご連絡くださいますよう
よろしくお願いいたします。

問い合わせ・連絡先：

三重大学国際環境教育研究センター支援室

(担当 亀山)

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

TEL 059-231-9976

FAX 059-231-9859

E-mail esd2014@gecer.mie-u.ac.jp
